

1. 略歴

1985 年 4 月	東京大学教養学部文科三類入学
1987 年 4 月	東京大学文学部西洋古典学専修課程進学
1989 年 3 月	同専修課程卒業
1989 年 4 月	東京大学大学院人文科学研究科西洋古典学専攻修士課程入学
1992 年 3 月	同修士課程修了, 修士 (文学) 取得
1992 年 4 月	同博士課程進学
1994 年 10 月	イタリア, フィレンツェ大学文学哲学部留学 (～1996 年 9 月. なお 1994～1995 年はイタリア政府奨学金給費留学生)
1999 年 3 月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻博士課程 (専門分野: 西洋古典学) 単位取得満期退学
1999 年 9 月	博士 (文学) 取得
2009 年 10 月	東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻准教授
2019 年 4 月	同教授
2020 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

西洋古典学

b 研究課題

1. ラテン詩文研究
2. ギリシア・ローマ文化におけるオーラリティとリテラシー、とりわけホメロス叙事詩の伝承について関心がある。
3. ヨーロッパ文化における西洋古典の受容

c 概要と自己評価

上記 b の 1 については、下記の d (1) の 3 点が該当する。「ラテン詩文研究」とはいっても、相変わらず論ずる作家が、アウグストゥス時代の詩人に限定されているので、研究範囲を少しずつ拡張したい。2 については、(3)②が当てはまるだろうか。『オデュッセイア』第 19 巻のエクフラシスの演劇的機能、さらにこれにかかわりがあると思しきエウリピデスの『イオン』と『タウリケのイピゲネイア』におけるエクフラシスについて論じた。3 については、ささやかな成果であるが、(2)と(3)①が相当する。

d 主要業績

(1) 著書

共著、日向太郎、「波打ち際の語らいーオウィディウス『恋愛術』第 2 巻 123-144 行」、葛西康德編著『藤花のたわむれー久保正彰先生の卒寿を祝して』第 1 巻、159-176、2020.10

共著、日向太郎、「プロペルティウスのアポロロ詣でープロペルティウス第 2 巻第 31 歌」、浜本裕美・河島思朗編著『西洋古典学アプローチー大芝芳弘先生退職記念論集』、晃洋書房、121-139、2021.1

共著、日向太郎、「アウグストゥスと詩人たち」、葛西康德／ヴァネッサ・カッツァート編『古典の挑戦ー古代ギリシア・ローマ研究ナビ』知泉書館、159-192、2021.3

(2) 翻訳

個人訳、日向太郎、フランチェスコ・パトリーツィ Francesco Patrizi 著「ルドヴィーコ・アリオスト擁護 *Parere in difesa di Ludovico Ariosto*」、池上俊一監修『原典ルネサンス・イタリア芸術論』(下) 名古屋大学出版会、895-916、2021.6

(3) 論文

①日向太郎、「ボッカッチョの古典研究」、『文化交流研究』34 (2021) 49-56、2021.3

②日向太郎、「オデュッセウスのブローチー『オデュッセイア』第 19 巻 225-235 行一」、『慶應義塾大学言語文化研所』53 (2022) 297-310、2022.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、実践女子大学文学部、「西洋古典 a」および「西洋古典 b」、2021.4～

非常勤講師、九州大学大学院人文科学府・文学部、「西洋古典学講義 II」／「西洋古典文学特論 III」、2022.3

(2) 学会

日本西洋古典学会（委員）、地中海学会、イタリア学会（幹事）、「古典文献学研究会 Philologica」